

やたの

認知症高齢者グループホーム

避難経路確保タイプ・湿式スプリンクラー設置



リビング天井部分に取り付けられたスプリンクラーヘッド

特徴

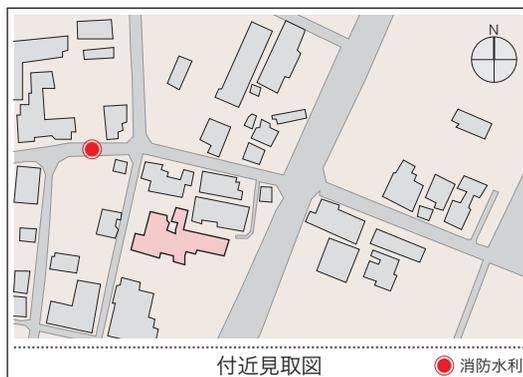
新築平屋建て2ユニットのグループホーム。全居室の掃出し窓から直接外部に避難可能である。しかし、消防指導ならびにスプリンクラー設置に対する交付金制度の創設に伴い、水道直結式スプリンクラー（湿式）を設置した。防火管理体制の構築に力を入れており、近隣の同一グループ系列施設および近隣住民との連携体制が確立している。また内容の吟味された避難訓練を年2回行っている。

概要

法人名：社会福祉法人 共友会
 事業内容：認知症高齢者グループホーム
 （18名：9名×2ユニット）
 所在地：石川県小松市
 開設年月：2005年7月
 新築/改修：新築
 耐震性能：新耐震基準
 延床面積：516㎡
 消防法区分：施行令 別表第一 6項（ロ）
 SP設置状況：設置済（水道直結式）
 夜勤体制：2名



外観



付近見取図

● 消防水利

防火管理体制

- グループ内で複数の特別養護老人ホームや認知症グループホームを運営しており、防火管理体制の充実に努めている。そこでの知識を生かして当施設での防火管理体制を構築している。
- 近隣の同一グループ系列施設との連絡網が確立している。火災時の連絡網はホーム内スタッフとグループ系列施設の2系統ある。前者はホーム長から各ユニットリーダー→各スタッフへと連絡がまわる。後者はホーム長から理事長や近隣の精神障害者福祉工場長→グループ各施設へと連絡がまわる。
- 火災発生時には通報後、約3分で消防が到着する予定である。建物は住宅街にあるので、比較的地域の人々の協力が得られやすく、消防訓練などに参加してもらっている。火災発生時、地域住民には外部に避難した利用者のサポートを期待している。
- 避難訓練は年2回、毎回内容が異なるものを行っている。例えば、地域住民も参加した初期消火、通報および避難訓練、消火器の取扱い訓練、非常用放送設備の取扱い訓練等である（非常用放送設備の設置義務はないが自主設置した）。さらに、より実践的な訓練を目的として、事前打ち合わせなしの夜間想定・出火場所不明の訓練を行った。ここでは初期消火、避難誘導にうつるタイミング、消防通報、夜間スタッフ2名の連携体制、地域協力住民への連絡、利用者の避難誘導の方法がポイントとされた。訓練後に消防から実践的アドバイスをもらい、それに基づいて次回訓練を計画している。例えば、グループホーム平面図上において様々な出火場所を想定したシミュレーション訓練を行った。
- 2ヶ月に1回開催される施設運営推進会議において防火管理をテーマに消防に協力してもらっている。



2ユニットのつなぎ部分にある各種消防設備



外部避難経路の確保



公共の消火栓と施設の位置関係（正面がやたの）



避難訓練の様子

スプリンクラー設置に関して

経緯：消防法改正（2009年4月）に伴い設置

種類：水道直結式／加圧ポンプなし／湿式

設置費用：4,651,500円（内交付金4,644,000円） m²単価 9,014円

施工期間：2009年4月13日～5月13日

■ スプリンクラーは、当初、乾式工法で計画していたが、水圧不足のため加圧ポンプが必要となった（この地域の水圧の問題もあるが、この建物自体が入り組んだ建物であり、配管がきわめて長くなり、水圧が確保できないため。複数系統にする場合には同一水道管からの分岐ではなく、別の水道管から取込む必要があったが、水道管は当施設で1カ所のみであった。このため加圧ポンプが必要となった）。しかし、ポンプコストが約100万円であることと、計画当時、認定ポンプがでていなかったため、消防及び水道局より湿式工法を提示された。その結果、水道管との接続箇所逆流防止弁を取り付け、配管末端をトイレ給排水に接続した。湿式のメリットは停電時にも作動することである。

■ 設置工事に関しては、天井懐が大きく、作業員が点検口から入り天井懐内で作業可能であったため、入居者の待避などは最低限で済んだ。点検口がある建物なので、事前に確認して工程計画をたてることができた（点検口がないと実際に施工しながら状態を確認していかなければならないため事前の工程が組みにくい）。入居者の生活を優先したため、施工期間は約1ヶ月となった。

■ 小屋裏まで貫通している防火上主要な間仕切りが多いため若干苦勞した。配管はライニング管ですべて行った（防火上主要な間仕切りを貫通できる）。



居室天井に取り付けられた SP ヘッド

喫煙場所上部天井にも SP ヘッドを自主設置

湿式 SP 配管の末端はよく使われるトイレに接続し常時管内停留水交換



1階平面図

1 / 300

建築概要

工 期：2009年3月～2009年3月
 設 計：未来建築設計
 施 工：藤井空調工業(株)
 敷地面積：1,040 m²
 建築面積：538 m²
 延床面積：516 m²
 構 造：木造
 階 数：地上1階

建築基準法上用途：児童福祉施設等
 建物の所有形態：所有
 土地の所有形態：賃貸

防火管理体制概要

夜勤体制：2名（各ユニット1名）
 防火管理者：選定している
 消防計画：策定している
 避難訓練：実施している
 昼間想定：1年に1回
 夜間想定：1年に1回（昼間に実施）
 地域住民の参加：あり
 地域の消防訓練への参加：あり

消防法区分（施行令 別表第一）：6項（ロ）
 消火器：設置
 自動火災報知設備：設置
 消防機関へ通報する火災報知設備：設置
 非常用放送設備：自主設置
 消防水利：敷地外 約100m
 スプリンクラー：設置済み（水道直結式）